

雜報

●ベスタロツチ先生の紀念會 去る一月十三日帝國教育會に於て、先生死後滿百六十年の紀念會を催したり普通學務局長澤柳政太郎氏開會の辭を述べ、東京高等師範學校附屬主事小泉又一氏は先生の傳及主義に關する講演をなし前文部大臣久保田讓氏、外數名士の祝辭あり、會するもの數百人中々に盛會なりき、當日式場に於て東京府女子師範學校生徒の合唱せる先生追慕の歌あれど、今は略す。

●女子大學の附屬幼稚園 小石川女子大學に於ては愈本年四月より附屬幼稚園を開設するに決し、森村豊明會より數万圓の寄附を爲したる篤志を紀念する爲めに、豊明幼稚園と稱すと云ふ。

●精華小學校幼稚園 寺田勇吉、湯本武比古兩氏の主幹せる同校にては、來る四月より幼稚園を附設する由にて、目下保姆の人选並に幼兒の募集中なりと云ふ

●託兒場設立の計畫 東京市にては今般託兒場設置に關し不日評議員會を開き議決の上其筋に至急開設を促す筈なりと云ふ今其議案なるものを聞くに左の如し

- 一、市に於て其特種小學校に託兒場を附設するも（本文託兒場に凡そ八十名を入るゝものとし保護料を徴收せざるごと）
- 二、市より各區に勧誘し、適良の位置に託兒場一ヶ所以上を設置せしめ、又は其市立小學校に附設せしむること（本文託兒場は同八十名を入るゝものとし）保護料として實費を徴收するも差支なきものとす
- 三、前項託兒場は學齡未滿の幼兒を入れ成るべく簡易なる方法により、保護遊戯せしめて、身軀の發達を遂げしむるを本體とし、三歳以上の者に對しては漸次に智徳開發の方法を用ふること

●東北凶歉救濟の檄 知人より左の檄文を送り越

したり、東北の天地今や悲惨を極む天下仁慈の人
 奮つ彼等の窮を救はれんとを、敢えて全文を載せ
 て讀者諸姉の御同情を希望す、

東北凶歉救済の概

嗚呼悲惨なる東北の天地！去る三十五年凶荒の創痕猶癒ざる
 に昨年の大凶歉に遭遇し、今や福島、宮城、岩手三縣の野に大
 餓鬼道を現出しつゝあるにあらずや；心あるの仁誰か此の悲惨
 を袖手するを得ん乎。

昨年凶作の原因は實に天候不良の致すところにして、遂に三縣
 下は收穫皆無と云ふ悲惨に陥りたるなり、而して或る町村の如
 きは日露の戦役に際し、恒に非常米として積立て、凶荒に備へた
 りしを利用し以て倉庫を空虚ならしめて國債に應じたりしに、
 圖らずも此の大凶作に遭遇し一層の悲痛を來せりと云ふ、今吾
 人が聊か救済せんとする教育の方面に於て之を述べんに、今や
 小學校を閉鎖せんとしつゝある町村を生ずるに至れり、たとひ
 此の甚だしきに至らざるも半日學校の不吉を見んとしつゝある
 町村あり、吾人は此等小學校を訪問し親しく聞く所によれば、
 各校に辨當を持參せざる二十乃至三十の兒童あり、教師は之を
 憂ひ自ら甚だしき粗飯を示して如何なる粗惡の食物にても恥つ
 ることなく持參すべく説諭するも只御腹がすきませんと云ふの
 みにて、依然として持參せず、仍て彼等兒童の家庭の状況を視
 察するに全く辨當の材料に非ざる粗惡極まる食物を見る故に各

町村現下の急務として小學兒童辨當給與の方法を調査し、現に
 實施しつゝある町村あり、昨年末までは甚だしき慘状は尠かり
 しが本年一月となり來て慘状の度一層を加へたり、想ふに更に
 三四月頃に至らば益々其極に達せん、噫其最も困難なる時に於
 て小學校の新學年は開始せられ教科書購入の必要に迫るべし、
 然れども前述の如き塗炭に苦しむの徒にして如何にして之を講
 求するを得んや、是れ吾人が大に痛心する所にして、同志と相
 謀り世の仁人に訴へ以て此等小學兒童に對して教科書を給與せ
 んとす、伏して請ふ血あり涙ある吾人同胞諸氏よ、一掬の血涙
 を以て現下の窮狀を救ひ給はんことを、

明治三十九年一月

福島縣佛教救済會

綱 領

- 一本會は本部を福島縣双葉郡幾世橋村大聖寺に置き事務所を東
 京市小石川區大塚坂下町十七番地に置き一切の事務を取扱ふ
 - 一義捐金は多小に拘はらざる事
 - 一御送附の義金は東京小石川小日向水道町木場銀行支店へ保管
 を依頼す
 - 一義金は成べく事務所へ宛て御送附を乞ふ又は御便宜に依り直
 接銀行へ御送附相成候も差支なし
 - 一領收は「加持世界」「智嶺新報」誌上にて報告すべし
 - 一教科書の配布は福島縣廳へ依託す
 - 一義捐金のメ切は三月二十日迄とす
- 以上

東郷大將紀念會の記

鹿兒島高等女學校四年乙組 牧野富子

旅順に日本海に連戦連捷其の名を世界にとゝるか
 したまへる東郷大將、實に君は三才の童子と雖
 其の名を知らざるはなし、又一度大將の名を聞き
 ては欽慕せざるはなし、これ大將の徳高く義勇の
 心ふかければなるべし、あゝ大和男子の摸範とす
 べきこの人物、そも如何なるところに生ひ出で如
 何なるところに人となられしか、これ我等の
 日々通ひなれたる學やこの園生こそ即ち大將の
 うふてゑあげられし所なりとかや、されば我が校
 にてはこの勳たかき東郷大將のたんの地の明に
 し、以て大將の異功を千代よろつよまでも傳へん
 と十一月廿三日常磐なる松を植ゑかたへに碑をた
 て、大將のたんの生地なるを記したり、こゝに於て

紀念式を行ひ後余興として學友會は開かれたり、
 例によりて談話音楽文藝の三部をひらき、午後よ
 りは運動部始まる、例よりこの日は勇氣百倍した
 らんか、常に足よわき吾もけふは一等のかずにい
 りにしぞをかしかりける。

あゝ實に鹿兒島は英雄の出身地とも云ふべく、前
 には大久保西郷共にこの地に出で、其の名をあげ
 たり、今又東郷大將我が學やより出づるに及んで
 は亦我等の責任かるしと云ふべからず、抑も我が
 日本は露西亞と戦ひ戦捷國として其の名を世界に
 輝かせりと云へども勝てかふとの緒をしめよの名
 言に遭遇せるは即ち現世の日本ならむ、されば未
 來に於て良相たり良妻となり子女を養成する我
 等はますゝこの鹿兒島をして英雄の出生地たら
 しめざる可からず

◎新年の雜誌界

▲女子の友 (一七四號)

相變らざる多方面に亘りて材料豊富、戦後の經營は此誌上にも絶叫せらるる宛に角文學雜誌中に於ては重きをなすべし

▲明治の家庭 (第二卷第一號)

口繪の西洋畫頗る好評他は別段の事もなし

▲明治の婦人 (第一卷三號)

發刊以來日淺けれども新年號は中々よく整頓せられたり、内容は修養的文學的に稍多く傾けり、最初の主張を實現せんには今少しく實用的方面に重きを置くの必要なきか、

▲日本の家庭 (第二卷第五號)

挿繪の數多きと用紙のよきとは家庭雜誌中の隨一である、そして印刷が色まざりなので大層賑やかに見える、新年號からは頁數も少し増して、子供欄など設けられた、同文館發行だけありて疏石に印刷の値があると見えたり、右の外、女子と家庭とに關する刷物は數限りがないけれどもあまりくたくしければおきつ、

新 刊 案 内

▲女子文藝

第一卷第一號

毎月一回一日發行 定價一冊金拾錢

戦後の經營が雜誌界に迄も及びたる中に、女子の理想的修養を目的としては先に明治の婦人あり、今また家庭に趣味を供給し併せて女子の修養に資せんとする希望を以て本誌は生れたり、論點には高嶋平三郎氏の家庭教育雜觀、鹽井雨江氏の家庭の缺點などあり、其他家庭、文藝、雜錄、女子文藝、等の諸欄、材料豊富にして面白し、口繪と挿繪との數多きは讀者に受けよかる可し

會 報

明治卅九年一月入會者

- 北海道釧路港浦見町
- 岩手縣盛岡市内丸十三番戶
- 臺灣嘉義小學校
- 岡山縣岡山市上西川
- 三河國豊橋町東八丁九九
- 愛媛縣松山市久保町四〇
- 岡山縣兒島郡長瀬村大字大畠

- 萬 澤 初子
- 萱 場 久 惠
- 上 野 喜 一 郎
- 山 根 夏
- 海 寶 ち ば を
- 濱 と み
- 氷 山 香